

## 概観

### 【政治・社会】

・26日、国民議会選挙（議席数240）が行われ、GERBが95議席を獲得し第1党となったが、過半数には及ばなかった。BSPは80議席、統一愛国者は27議席、MRFは26議席、ヴォリヤ（意志）は12議席をそれぞれ獲得した。

### 【外 政】

・国民議会選挙をめぐり、トルコとの緊張が高まった。

### 【経 済】

・7日、国家統計局は、2016年のGDP成長率は前年比3.4%（速報値）となったと発表した。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

## 政治・社会

### 1. 内政

（1）国民議会選挙に関する動き

#### ◆ボリスフGERB党首の発言

▶2日、GERB（ブルガリアの欧州における発展のための市民）のボリスフ党首（前首相）はテレビ番組で、26日に行われる国民議会選挙で第2党になった場合、GERBは野党にとどまり、政権には参加しないと発言した。

#### ◆ブルガリア解放記念日の式典開催

▶3日、ブルガリアのオスマントルコからの解放139周年を祝う行事がブルガリア各地で開催された。

▶首都ソフィアでは、無名戦士の墓の前で国旗を掲揚する式典が開催され、ラデフ大統領（軍最高司令官）、ヨトヴァ副大統領、ヤネフ暫定国防大臣その他の閣僚、ネオフィット・ブルガリア正教会総主教、ハッジ大ムフティー、外交団、市民等が出席した。

#### ◆国民議会選挙の実施

▶26日、国民議会選挙（議席数240）の投票が行われた。今次選挙は、昨年11月のブルガリア大統領選において与党GERBの候補が敗北した責任を取って第2次ボリスフ内閣が総辞職した後、国民議会会派による新たな組閣が行われなかったことを受けて、本年1月に就任したラデフ大統領が国民議会を解散したことに伴う前倒し選挙。▶30日に中央選挙管理委員会が発表した公式結果は以下のとおり（得票率及び獲得議席数。得票率1%未満の政党・連合は省略）。投票率は54.07%であった。

1. GERB：33.54%（95議席）

2. BSP：27.93%（80議席）

3. 統一愛国者：9.31%（27議席）

4. MRF：9.24%（26議席）

5. ヴオリヤ（意志）：4.26%（12議席）

【以下は議席獲得に必要な得票率4%未満】

6. 改革派ブロック・国民の声：3.14%

7. Yes, ブルガリア：2.96%

- 8. DOST : 2. 94%
- 9. ニュー・リパブリック : 2. 54%
- 10. ABR・運動21 : 1. 59%
- 11. ヴァズラジダネ (復興) : 1. 11%

▶26日、出口調査結果でGERBの優勢が伝えられたことを受け、同党のポリソフ党首は、我々の勝利は明らかであるとし、有権者はGERBが政権を主導すべきことを再確認したと述べた。また、同党首は、ブルガリア社会党(BSP)は好敵手であり厳しい戦いだったとした上で、この結果を踏まえると、GERBに組閣の義務があると述べた。外交政策に関して同党首は、新政権は外国による内政干渉を許さないと述べるとともに、EU議長国という貴重な機会を得る2018年1月1日からの数か月は、安定した政府と安定した野党を必要とすると発言した。

▶26日、BSPのニノヴァ党首は出口調査の結果を受けて、BSPは前回の議会選挙から議席を倍増したと述べ、我々が正しい道を歩んでいることが示されたのであり、自分たちが始めた変革を継続していくと強調した。また、同党首は、GERBの勝利を祝福するが、BSPは招かれたとしても連立政権への参加を拒否すると発言した。

#### ◆議席ゼロに終わった右派の動き

▶27日、ニュー・リパブリック(NR)のカネフ代表は記者会見を行い、右派が議席を獲得できなかった責任を取り、NRの代表と「強いブルガリアのための民主主義者(DSB)」党首の両職を辞任すると表明した。同代表は、政界にはとどまる意向。

▶27日、改革派ブロックは、「国民の声」との連合で議席を獲得できなかったことを受け、執行部(政治評議会)の辞任を決定したと発表した。

#### ◆スラヴィ・トリフォノフ氏による警告

▶27日、人気テレビ番組司会者で昨年の国民投票を提案したスラヴィ・トリフォノフ氏は次期国民議会議員宛の公開書簡を公表し、国民投票で多

くの国民が支持した多数代表制(日本でいう小選挙区制)の導入等の選挙制度の改正について、国民議会開会后2週間以内に審議を始めなければ国民議会前で抗議行動を起こすと警告した。また、選挙制度改正のための法案を可決するための期限は、審議開始の2か月後であるとも警告した。

#### ◆選挙監視団による報告

▶今次選挙の監視を行った欧州評議会議員会議(PACE)及びOSCE民主制度・人権事務所(ODIHR)の選挙監視団は27日、記者会見を行い、今次選挙は不十分な点もあったものの、よく組織されており、市民は自由な選択を行うことができたとの暫定評価を発表した。一方、選挙監視団は、選挙プロセスへの外国政府による干渉があったとの情報にも接していることも明らかにした。

#### ◆ニノヴァBSP党首による選挙の評価

▶28日、ニノヴァBSP党首は記者団に対し、選挙結果に関して以下の評価を述べた。

1. 選挙結果はBSPにとって大成功である。2009年以降の選挙において最大の議席数を獲得し、ラズグラットやカルジャリというこれまで議席ゼロであった選挙区で議席を獲得し、7つの県庁所在地においてBSPが最多の票を得ることができた。若者のBSPへの票も増大し、若者は概して社会党を嫌うという主張を覆すことができた。
2. 現段階で連立政権参加の可能性についてはコメントしないが、BSPの政策と最も多くの共通点を有するのは統一愛国者である。権利と自由のための運動(MRF)は連立パートナーになり得ない。
3. 選挙運動において過ちがあったことは認める。その件について31日に党指導部で分析を行う予定である。

#### ◆BSP全国評議会がニノヴァ党首を信任

▶31日、BSPの全国評議会が開催された。選挙でBSPがGERBに敗北したことを受けて行

われたニノヴァ党首の信任投票では、ニノヴァ党首への信任が全会一致で承認され、BSPとブルガリアの改革を継続する方針が確認された。また、選挙結果について前向きな評価がなされた。

▶BSPの指導部は、GERBから連立協議への参加を求められた場合、協議には応じるが、政策の違いにより連立政権には参加しないとの方針を決定した。

## (2) 難民流入問題

### ◆対トルコ国境の警備強化

▶14日、ゲルジコフ暫定首相は今後数日間に予想される難民の大量流入に備えて、ブルガリア・トルコ国境の警備を強化すると発表した。最近のトルコ・オランダ関係の悪化及びトルコ政府がEUとの難民協定を見直すと言ったことを受けての発表と見られる。

### ◆難民流入に関する国家対策本部の会合開催

▶16日、ウズノフ暫定内務大臣立ち会いの下、ブルガリア国境における流入難民の増大によるリスクと脅威に対する国家対策本部が今年に入って初の会合を開催した。

▶同会合では、ブルガリア国境の現状、収容施設の問題、前年決定された各種事項の履行状況及び春以降の国境警備について協議された。国境警察局は国境における人身売買を効果的に摘発し、新たな密入国ルートができるのを防ぐことを優先課題とした。2017年1月及び2月のブルガリア・トルコ国境における不法入国の件数は、2016年及び2015年同期の件数から劇的に減少した。2016年10月から12月にかけて、661名の第三国籍者が強制送還され、うち281名がアフガニスタン国籍だった。2017年1月及び2月の強制送還者数は705名で、うち353名がアフガニスタン国籍だった。難民庁が管理する収容施設の稼働率は60パーセントとなっている。被収容者は、国籍、家族の有無及び年齢等に基づき収容施設に振り分けられる。

▶同会合では、トルコ国境のフェンスの建設及び

維持への予算分配についても協議された。国境警備は引き続き国防省と共同で行われ、新たな警備車両投入の可能性も検討された。国境警察、国家警察及び国防省は難民流入が増大した場合に投入する人員配置をそれぞれ検討し、即時対応が可能な体制を維持する。

### ◆難民の生活保障を定めた政令の取消し

▶31日、臨時の閣議が急ぎよ開催され、前政権が採択した難民の生活保障を定めた政令が取り消された。関係省庁の専門家による作業部会が4月7日までに新たな政令案を準備し、閣議に提出する。

## 2. 外政

### (1) 対EU関係

#### ◆ラデフ大統領のブリュッセル訪問

▶9日から10日まで、ラデフ大統領は欧州理事会に出席するためブリュッセルを訪問した。同大統領は、EUの将来に関する宣言について議論する27か国による非公式首脳会合にも出席した。

▶9日、ラデフ大統領は欧州理事会を前に記者団に対し、ブルガリアはEU内で相違を深めることや、「2つのスピードの欧州」の確立、中心と辺境の形成といった傾向を受け入れないと述べた。

▶9日、ラデフ大統領は欧州委員会でEU離脱交渉を担当するバルニエ首席交渉官と会談し、EUが交渉プロセス全体を通して統一したアプローチを追求すべきこと、また、英国在住のEU加盟国民及びEU加盟国在住の英国国民の地位に関して相互に受入れ可能な決定を目指すべきことについて一致した。

▶10日、ラデフ大統領はブリュッセルで記者団に対し、EU加FTA（CETA）を歓迎したことはないし、これからも歓迎することはないと言った。

#### ◆ラデフ大統領とトゥスク欧州理事会議長との電話会談

▶22日、ラデフ大統領はトゥスク欧州理事会議

長と電話会談を行った。同会談においてラデフ大統領はトウスク議長に対し、3月25日にEU加盟国の首脳により採択されるローマ宣言の案文に結束政策に関する記述が盛り込まれたことへの謝意を表明した。3月10日の欧州理事会に際して行われた欧州の将来に関する議論において、ラデフ大統領は、加盟国間の経済格差を縮小しEUの統一を促進する結束政策がローマ宣言に盛り込まれるよう要望していた。

▶トウスク議長は、移民流入の急激な増加に際するEUの行動計画の採択及びブルガリアによる国境防衛のためのさらなる財政支援を要請するラデフ大統領の書簡に対する支持を表明した。

▶ラデフ大統領は、3月26日に行われるブルガリア国民議会選挙の準備状況や、トルコによる同選挙やブルガリアの内政に対する干渉を受けてトルコと緊張関係にあることを説明した。両者は、2008年のトルコ漁師死亡事件に関してブルガリアの国境警察官がトルコ当局から起訴された問題についても議論した。ラデフ大統領は、ブルガリアは国境警察官を守り抜く意向であり、EUが連帯を示してくれることを期待すると述べた。

#### ◆ラデフ大統領のローマ訪問

▶24日から25日まで、ラデフ大統領はローマ条約署名60周年記念EU首脳会合に出席するためローマを訪問した。

▶24日、ラデフ大統領は他のEU首脳とともにローマ法王フランシスコと会見した。同大統領は招かれてEU首脳の中で最初にフランシスコ法王に挨拶した。

▶25日、ラデフ大統領はローマ条約署名60周年記念式典後、記者団に対し、ブルガリアは（2018年前半の）EU議長国として統一された欧州の将来にさらなるエネルギーを注ぐと述べた。また、同大統領は、ローマ宣言の採択は、今後10年あるいはそれ以上を見据えて開始されたEUの将来の議論の発展にとって極めて重要であると指摘した。

#### ◆ユンカー欧州委員長からボリスフGERB党首への祝辞

▶27日、ユンカー欧州委員長はGERBの国民議会選挙における勝利を受けて、ボリスフ党首への祝辞を送付した。ユンカー欧州委員長は祝辞において、安定した政権が早期に発足することへの期待を表明するとともに、欧州の将来に関する現在の議論や来るブルガリアのEU議長国就任を踏まえると、今はブルガリア、EU、そしてEUの将来にとって重要な局面であると指摘した。

#### ◆EU加盟各国大使によるCVM支持の共同ステートメント発出

▶28日、在ブルガリアEU加盟各国大使は、ブルガリアにおける司法改革と汚職・組織犯罪対策の進捗状況をモニタリングする欧州委員会の協力・検証メカニズム（CVM）への支持を表明する共同ステートメントを発出した。ブルガリアの一部メディアによるCVM批判を受けたもの。

#### （2）対トルコ関係

#### ◆トルコ閣僚のDOSTへの投票呼びかけに対しブルガリア外務省が抗議

▶7日、ミルチェフ暫定外務副大臣はギョクチェ在ブルガリア・トルコ大使を外務省に呼び、3日と6日にミュエッジンオール・トルコ労働社会保障相がトルコ在住のブルガリア人に対して、26日のブルガリア国民議会選挙への投票を呼びかけるとともに特定の政党（トルコ系政党DOST）への支持を促したことについて、内政干渉であると抗議した。

#### ◆「統一愛国者」支持者による対トルコ国境の封鎖

▶21日、ブルガリアの対トルコ国境が「統一愛国者」の支持者らによって一時封鎖された。26日の国民議会選挙のため、トルコ在住のブルガリア人が投票のために大挙してバスでやって来るのを妨害するのが目的。昨年選挙法改正によりEU非加盟国での在外投票所の設置数が35か所ま

でに制限されたため、多くのトルコ在住ブルガリア人がブルガリアでの投票のため来訪することが見込まれている。

#### ◆トルコ国籍者5名に対する国外追放等の処分

▶21日、国家保安庁（SANS）は、ブルガリア国内の多様な民族が混在する地域で反ブルガリア感情を煽るなど国内の秩序を乱す活動をしたとしてトルコ国籍者5名に対し、それぞれ国外追放、居住権の剥奪及び入国禁止処分を下した。これらの処分は、今後5年間有効なものである。

▶処分を下された5名のうち1名はブルガリアに複数年居住しており、ここ数年間はトルコ国家機関の職員として長期滞在者の資格を取得していた。別の1名はブルガリアの国家安全を脅かす外国人としてデータベースに登録された。SANSによれば、このうち1名はブルガリア滞在中にブルガリアの国家機密に指定されている情報の入手を試みたとしている。今回の措置は、SANSが国家の脅威に対して有する処分権限を執行したものである。

#### ◆トルコがブルガリアの国境警察官を起訴

▶21日、4人のブルガリア国境警察官がトルコ人漁師殺害等の容疑でトルコの裁判所から起訴状を送達された。2008年に黒海のブルガリア領海に侵入して漁をしていた3人のトルコ人漁師を国境警察官が拘束した際に1人の漁師が死亡した事件に関するもの。ブルガリアの検察庁は、トルコ側に国境警察官を引き渡す法的根拠はないとの立場を表明した。

#### ◆エルドアン・トルコ大統領とラデフ大統領との応酬

▶23日、トルコのエルドアン大統領とミュエツジンオール・トルコ労働社会保障相は、トルコ在住のブルガリア人が国民議会選挙の投票のためにブルガリアに入国するのを妨害させないようブルガリア当局に呼びかけた。また、エルドアン大統

領は、トルコが他国の内政に干渉しているとの主張を退けた。

▶これに対しラデフ大統領は、ブルガリアは他国の感情によってではなく自国の法律によって導かれる欧州の国であるとした上で、ブルガリアは民主主義に関する教えを与えることはないが、乞うこともなく、ましてや法の支配を尊重しない国からはそうであると述べた。また、同大統領は、指導者は歴史と地理から学ばなければならないと指摘した。

#### （3）その他

#### ◆ニノヴァBSP党首の社会主義国際ナショナル副議長選出

▶3日、コロンビアで開催された社会主義国際ナショナルの第25回大会で、ニノヴァBSP党首が同組織の副議長に選出された。ニノヴァ党首は、同組織のアヤラ事務局長自身から副議長選出の指名を受けていた。

#### ◆ムラデノフ暫定文化相のオーストリア訪問

▶6日、ムラデノフ暫定文化相は、訪問先のウィーンでドロジダ・オーストリア文化相と会談した。▶同会談では、2018年前半のブルガリアのEU議長国就任、とりわけ議長国期間中の文化事業に焦点が当てられた。ムラデノフ文科相は、二国間の文化協力の発展を高く評価しつつ、さらなる発展の余地が残されていると指摘した。

#### ◆外務省幹部と在ブルガリア北朝鮮大使との会談

▶10日、外務省において、国連安保理決議第2321号に基づく北朝鮮に対する新たな広範囲の制裁履行に関する北朝鮮大使との会談が行われた。▶同会談では、6日、北朝鮮が4発の弾道ミサイルを発射したことについて、一連の国連安保理決議の直接の違反であると非難するブルガリアの立場が表明された。また、2月12日の北朝鮮による弾道ミサイル発射に対して、外務省が度重なる発射実験への懸念を表明する声明を発出したこと

が想起された。

▶北朝鮮側には、国際社会との対話再開及び朝鮮半島における緊張緩和の前提として、深刻な事態について釈明し、弾道ミサイル発射実験を停止し、国際約束を厳格に遵守することが求められた。

#### ◆ナイドノフ暫定外相のオーストリア訪問

▶15日、ナイドノフ暫定外相は訪問先のウィーンでクルツ・オーストリア外相と会談した。両外相は、文化・教育・科学・青年分野の二国間協力に関する2017-2021年プログラムに署名した。

#### ◆コヴェシ・ルーマニア国家汚職対策局首席検事のブルガリア訪問

▶15日から17日まで、コヴェシ・ルーマニア国家汚職対策局（DNA）首席検事がブルガリアを訪問した。

▶15日、ラデフ大統領はコヴェシ首席検事と会

談した。両者は、ルーマニアの汚職対策モデルについて議論し、両国が汚職対策において緊密に協力していくことが利益になるという点で一致した。同会談は、ラデフ大統領が就任前の昨年11月から実現を希望していた。

▶16日、コヴェシ首席検事は会合において、汚職対策の取組の経験について説明した。

▶17日、ツァツァロフ検事総長はコヴェシ首席検事と会談した。両者は、汚職捜査におけるブルガリアとルーマニアの検察の権限等について議論し、緊密な協力の必要性で一致した。

### 3. 軍事

#### ◆ボツェフ新軍参謀総長の任命

▶2日、ラデフ大統領は、アンドレイ・ボツェフ陸軍司令官を軍参謀総長に任命した。1月中旬にコンスタンティン・ポポフ軍参謀総長が辞任した後、エミル・エフティモフ海軍中將が軍参謀総長代行を務めていた。

## 経 済

### 1. マクロ経済

#### ◆2016年のGDP成長率は3.4%

▶7日の国家統計局の発表によると、2016年のブルガリアのGDP成長は、前年比3.4%となった（速報値）。2016年のGDP（名目）は926億3,500万レヴァとなった。

#### ◆ブルガリアの月額平均賃金は523ユーロ

▶14日のブルガリア独立労働組合連合（CITUB）の報道発表によれば、2009年から2016年の平均賃金上昇率が、2001年から2008年の上昇率を上回ったのは欧州でブルガリア、ポーランド、ドイツの3カ国のみであった。ブルガリアの賃金上昇は、雇用における構造改革、近年の欧州からの競争圧力及び持続的なデフレ傾向が要因となっている。

▶一方ブルガリアの月額平均賃金は523ユーロと近隣諸国と比べても低い賃金（ルーマニアはブルガリアの121.9%、マケドニアは116.

6%、セルビアは135%）となっており、同組合の委員長は賃金上昇の加速が必要であると指摘した。

#### ◆2016年のブルガリア・EU間の貿易

▶13日の国家統計局の発表によると、2016年のブルガリアからEU諸国への輸出は2015年より7.2%増加し、311億5,310万レヴァとなった。主な輸出先はドイツ、イタリア、ルーマニア、ギリシャ、フランスであった。

▶2016年のブルガリアへのEU諸国からの輸入は2015年比2.4%増加し、339億3,850万レヴァとなった。主な輸入元はドイツ、イタリア、ルーマニア、ギリシャ、ポーランドであった。

#### ◆2016年の平均失業率は7.6%

▶15日、国家統計局は、2016年の失業率を7.6%と発表し、2015年と比較して1.5%の減少となった。2016年における男性の失業

率は8.1%, 女性は7.0%であった。

▶15日, 国家統計局は, 2016年の失業率は7.6%であったと発表した。2015年と比較して1.5%の減少となった。

#### ◆ゲルジコフ暫定首相が欧州為替相場メカニズムへの参加について発言

▶1日, ゲルジコフ暫定首相は就任1ヶ月後の記者会見で, ブルガリアの欧州為替相場メカニズム(ERMII)への参加を申し入れる見込みであると発言した。同メカニズムは欧州単一通貨適用に当たっての待合室ともいわれているが, 同首相は本件が極めて困難な政治課題であるので約束はできないとした。同日, ゴラノフ前財務大臣は, 議論は進んでいるが, プロセスは短くても1年から1年半程度かかるとの見込みを示した。

▶また, 同暫定首相は16日の公開討論会でも同メカニズムへの参加への政治的意思を明確に示す必要があるとした。

## 2. 経済政策, 産業

### (1) エネルギー関連

#### ◆ブルガリアとギリシャ間のガス接続管事業会社代表の交代

▶8日付けブルガリア・エネルギー公社(BEH)の報道発表により, ブルガリアとギリシャ間のガス接続管事業会社のハムバルリエフ代表が, ゲオルギエヴァ代表に交代することが発表された。

▶本件交代は, 接続管建設事業の早期実施を目的としているが, 実際の建設開始は2018年を予定しており, 使用開始は2020年初頭を目標としている。

#### ◆ガスプロムのEU競争法違反問題

▶13日, 欧州委員会は, ガスプロムによる中東欧8カ国での天然ガス販売に対するEU競争法違反の疑いに関する同社のコミットメント案に対し, 関係国からコメントを求めることを発表した。

▶ブルガリアについては, 欧州委員会として, ガスプロムがブルガリアに対して過度に高い価格で

天然ガスを販売しながら市場を独占し, 孤立させているとして憂慮しているが, この市場独占はガスプロムの中東欧諸国との契約に基づくものであり, またブルガリアには現在ロシアからのガス・パイプライン以外のパイプラインは通っていないために起きている事態であるとしている。

▶またガスプロムとしてもブルガリアとの関係では対応を改善しており, ブルガリアに販売した天然ガスの再販売規制を撤廃しており, またブルガリアへの天然ガスの販売価格も油価に連動して低下させているとしている。

▶ブルガリアは, 4月末までに意見を提出することが可能となっている。

#### ◆4月から約1%の電気料金値上げ

▶30日, エネルギー・水規制委員会は4月からの家庭用電気料金の約1%の値上げを決定した。ソフィア市を含むブルガリア西部で電力供給を行うCEZ社では, 昼間電力を0.96%(kWhあたり0.17384レヴァ), 夜間電力を0.99%(kWhあたり0.10021レヴァ)値上げすることが決定された。

▶産業用電力については, 自由取引市場で電力購入する場合の社会的義務料金が3.5%の値上げとなり, これによって同料金はMwhあたり37.02レヴァとなった。

▶同日, イヴァノフ・エネルギー・水規制委員長は, 天然ガスの料金についても5月から値上げせざるを得ない状況となることを併せて表明した。

### (2) 非EU諸国との関係

#### ◆中国中社が鉄道分野で投融資の可能性

▶2日, アレクシエフ暫定運輸・IT通信大臣が報道陣に語ったところ, 中国中社(CCRC)がブルガリアの機関車及び客車製造工場に投資及び融資を行う。ブルガリア政府とは既に議論を開始しており, 投資に当たって政府保証は求めている。

▶9日付け運輸・IT通信省の報道発表では, CCRCによる投資の意図表明書が提出されたとの

ことであり、まず1.3億ユーロのブルガリア国鉄（BDZ）の負債の借り換えを行った上で、新規機関車製造工場の建設に1.7億ユーロの資金提供を行うが、機関車・車両は全欧州の基準に合致する基準で製造されるとのことである。今後両国のワーキンググループによって議論されることになる。

（3）その他

◆ソフィア空港コンセッション手続の中止

▶21日、アレクシエフ暫定運輸IT通信大臣は

ソフィア空港のコンセッション入札手続の中止に向けて手続を開始した旨発表した。

▶本件コンセッション入札手続は、ボリソフ政権時の2016年5月に開始された。応札締め切りが数回に亘って延長された後、現在の締め切りは本年5月19日とされていたが、同大臣は現在の手続によるコンセッションでは将来的に旅客手数料の値上げや旅客減少につながる可能性があり国益が守られないとして今回の手続に至ったとのことである。

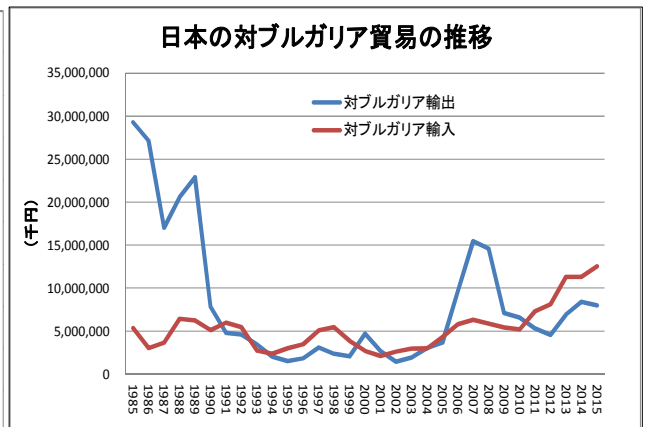
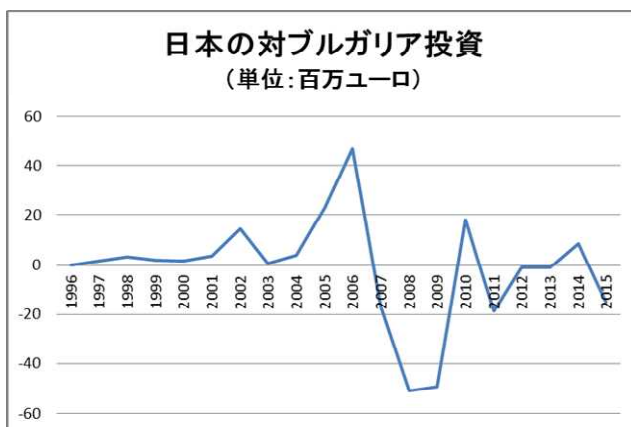
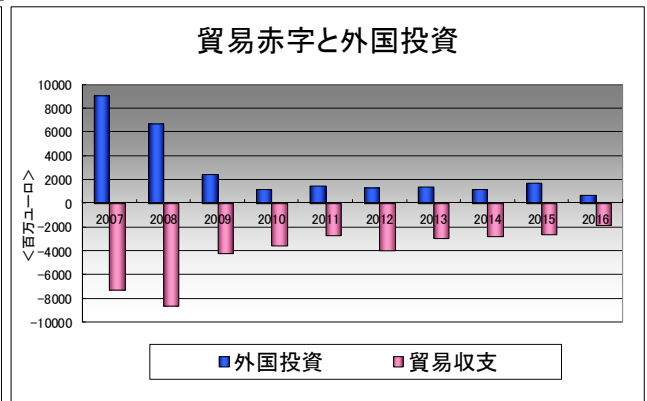
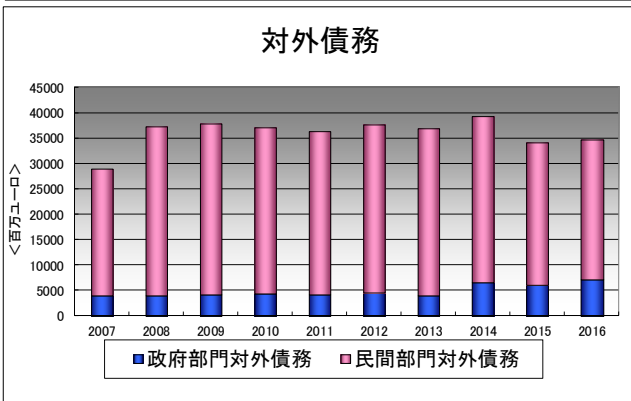
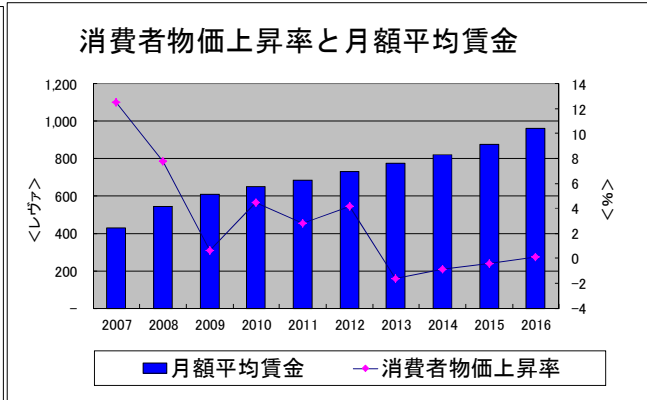
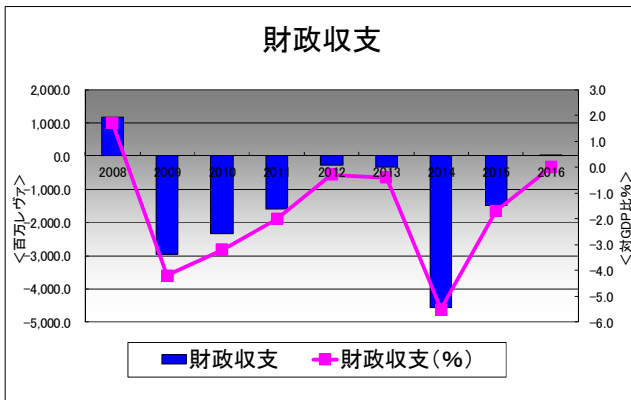
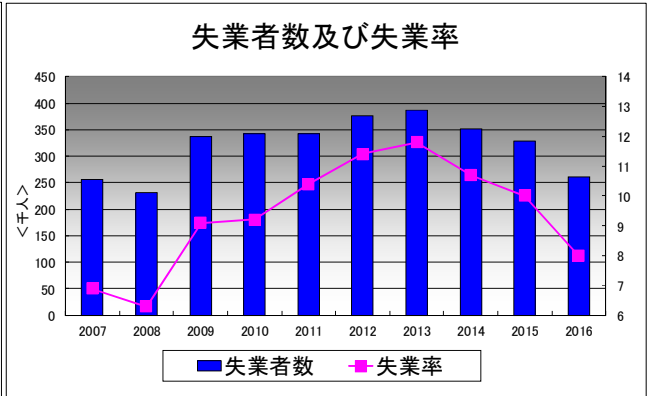
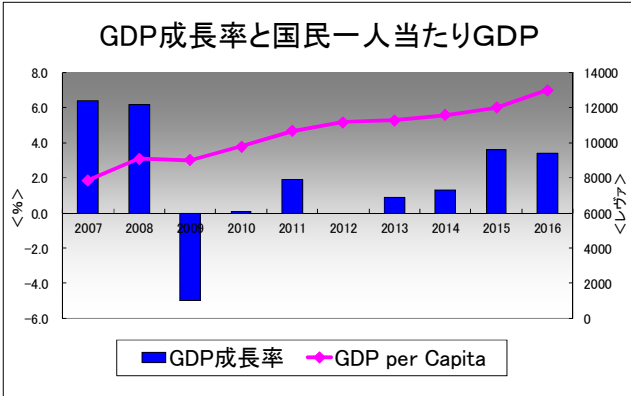


ブルガリア内政・外交の動き(3月)

在ブルガリア大使館

1 (水)	
2 (木)	
3 (金)	●ブルガリア解放記念日の式典開催
4 (土)	
5 (日)	
6 (月)	
7 (火)	
8 (水)	
9 (木)	☆ラデフ大統領：欧州理事会出席（於：ブリュッセル）
10 (金)	☆ラデフ大統領：27か国非公式首脳会合出席（於：ブリュッセル）
11 (土)	
12 (日)	
13 (月)	
14 (火)	
15 (水)	☆ナイデノフ暫定外相：オーストリア訪問
16 (木)	
17 (金)	
18 (土)	
19 (日)	
20 (月)	
21 (火)	
22 (水)	
23 (木)	
24 (金)	☆ラデフ大統領：他のEU首脳とともにローマ法王フランシスコと会見（於：ローマ）
25 (土)	☆ラデフ大統領：ローマ条約署名60周年記念EU首脳会合出席（於：ローマ）
26 (日)	●国民議会選挙
27 (月)	
28 (火)	
29 (水)	
30 (木)	
31 (金)	

# ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行)



## ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

### < GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016
GDP成長率 (%)	1.9	0.0	0.9	1.3	3.6	3.4
GDP per Capita (BGN)	10,673	11,162	11,275	11,561	12,001	12,996

### < 財政収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2016 Q1	Q2	Q3	Q4
財政収支 (million BGN)	-1,589.7	-262.5	-339.6	-4,559.0	-1,489.9	29.9	783.2	804.5	443.9	-1753.9
財政収支GDP比 (% of GDP)	-2.0	-0.3	-0.4	-5.5	-1.7	0.0	0.8	0.9	0.5	-1.9

### < 失業者数及び失業率 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017 Jan	Feb	Mar
失業者数 (千人)	342	376	386	351	329	261	270	270	262
失業率 (%)	10.4	11.4	11.8	10.7	10.0	8.0	8.2	8.2	8

### < 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017 Jan	Feb	Mar
消費者物価上昇率 (%)	2.8	4.2	-1.6	-0.9	-0.4	0.1	1.3	0	-0.5
月額平均賃金 (BGN)	686	731	775	822	878	962	-	-	-

### < 対外債務 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017 Jan	Feb
政府部門対外債務 (million EURO)	4,205.0	4,578.9	4,062.2	6,552.0	6,001.4	7,244.9	7,210.7	7,071.0
民間部門対外債務 (million EURO)	32,089.8	33,134.6	32,873.4	32,786.4	28,087.0	27,482.7	27,143.8	27,160.5

### < 対内直接投資と貿易収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017 Jan	Feb
対内直接投資 (million EURO)	1,476.3	1,320.9	1,383.7	1,160.9	1,692.4	682.8	57.4	102.4
貿易収支 (FOB) (million EURO)	-2,690.2	-3,992.0	-2,932.7	-2,776.6	-2,622.4	-1,789.9		
輸出 (FOB) (million EURO)	19,055.0	19,674.9	21,217.8	21,026.3	21,919.4	22,642.6		
輸入 (FOB) (million EURO)	21,755.2	23,666.9	24,150.5	23,802.9	24,541.8	24,432.5		